

第3章 麻生区市民健康の森 10年の歩み

平成14年4月21日(土)麻生区市民健康の森管理運営委員会の設立総会を開催した。平成13年度の準備会の事業報告、決算を承認後この会の名称を「麻生多摩美の森の会」とすること、並びにこの会の会則を決定し、新しく幹事を選出して会長ほか役員を選出した。

この会の活動の円滑化を図るため4つの分科会(森づくり分科会、畑の管理分科会、施設工作分科会、動植物調査分科会)が設置され担当幹事を決定した。

本章での10年の歩みは上記の分科会、各イベントの項目ごとに記載することとし、当会設立前からの活動も掲載することにした。出典は、主として「麻生区市民健康の森活動報告」各年次、および広報紙「麻生多摩美の森だより」各号。それ以外については、当該箇所に個別に記載する。

1. 森づくり分科会(森づくりとその管理)

1) 平成10年度(市民健康の森整備構想検討委員会直前)

麻生区市民健康の森構想検討委員会がスタートする直前の平成10年3月、現会員らによって現在の管理棟前にオニグルミが植樹された。当森の植樹第1号であり、森の歴史を伝えるとともに、現在も立派に成長し、たくさんの実をつけている。



2) 平成12年度(市民健康の森推進委員会)

現在の中央広場から北斜面にかけてアズマネザサが一面に覆われていた区域を、年度末行政サイドで伐採、抜根作業を行った。

また12回の推進委員会の開催後、麻生区長に「麻生区市民健康の森推進計画」を提言した。



オニグルミの植樹(平成10年)
下は今もなり続けるクルミ

3) 平成13年度(市民健康の森を育てる会準備会)

① 森づくりと管理

- ・前年度に業者が行った伐採の際に残った切り株の処置、新たに伸びてきたアズマネザサの伐採、抜根、草刈り。
- ・樹木の苗床の開梱、畑の位置および中央広場南側の道路の位置決定。

② 植樹

○苗の受け入れ(総数76本)

6月16日 県の2001千年樹事業によりニッケイ(5)、アカシデ(10)、クヌギ(5)、エノキ(10)、シデコブシ(5)、キハダ(5)、タブ(3)、シロダモ(2)、キブシ(5)、



推進委員会によるアズマネザサなどの伐採(平成12年度)

マンサク（5）の計 55 本が支給された。また
12月8日、有志によりコナラ（9）、ガマズミ
（2）、グミ（2）、サンショウ（2）、ケヤ
キ（3）、クヌギ（3）の計 21 本が寄贈された。

○植樹（総数 68 本）

6月16日 ニッケイ（5）、タブ（3）、シロダ
モ（2）を北斜面に、シデコブシ（5）を遊歩
道側疎林部に植樹。

植樹祭当日（12月8日）アカシデ（9）、クヌギ
（5）、エノキ（7）、キハダ（5）、キブシ
（3）、マンサク（5）、コナラ（9）、ガマ
ズミ（2）、グミ（2）、サンショウ（2）、
ケヤキ（3）、クヌギ（1）を疎林予定地の西
側の4分の1、および遊歩道に植樹（子供たち
を7班に分けて植樹した）。



県支給の千年樹などの苗木床



第1回植樹祭&収穫祭の植樹

4) 平成14年度

①森づくりと管理

4月 セイヨウタンポポ除去。6月 北斜面下草刈り。7、8、9月 全体の草刈り。
1月 西斜面下草刈り、北斜面の蔓草除去。

②植樹（総数 59 本、累計 127 本）

6月、北斜面にクスノキ、シラカシ、マテバシイ、スダジイ各 5 本植樹。

植樹祭当日（11月24日）クリ（10）、カキ（3）、ガマズミ（3）、クルミ
（5）、ミツマタ（3）、ハゼ（3）、ホオノキ（3）、キリ（3）、ヤマモ
モ（3）、シロイチジク（3）を植樹。

12月 ヤマユリの球根 10 球を北斜面、西斜面に植え付け。

5) 平成15年度

①森づくりと管理

夏場に全体の草刈り。アズマネザサの藪を更新のため少しずつ伐採を始めたが、
ルリビタキに邪魔されて中止した。

②植樹（総数 42 本、累計 169 本）

6月 購入したシラカシ、アラカシを北斜面に植樹（6本程度か？）。

植樹祭当日（11月16日）常緑樹、落葉樹 35 本を 5 班に分かれて植樹。

1月 会員の転居により庭に植えてあったカキの木 1 本いただいて植樹。

2月 常緑樹 13 本、コナラ、クヌギ 20 本を広場北側に植樹。

3月 藤棚の棟上げが終わり仮植えていたノダフジ 2 本を植樹。

6) 平成16年度

①森づくりと管理

夏場に全体の草刈り。11月 樹木の名札作り、名札掛け。3月 枯れ木の伐採。

②植樹（総数 22 本、累計 191 本）

植樹祭当日（11月21日）ドウダンツツジ、クルメツツジ、ハギなど低木20本を5班に分かれて植樹。また、いただいたヤマザクラ2本を植樹。

7) 平成17年度

①森づくりと管理

夏場に全体の草刈り。3月 北斜面の下草刈り。

②植樹（総数62本、累計253本）

5月 細山開発予定地からヤマアジサイなど30数本引き取りの話があり、当会、多摩美みどりの会、こもれびの会合同で抜き取り、移転作業を実施した。大部分を当会の苗床に仮植えし、あと随時予定地に本植えした。森の入口の歩道沿いと藤棚周辺に5本移植した。

植樹祭当日（11月20日）ハギ、ミツマタ、チャなど修景用の低木を約50本、5班に分けて植樹。チャ約20本は活着せず枯れた。

2月 桜の苗木7本（ヤマザクラ3、ヒガンザクラ2、カワズザクラ2）の寄贈を受け、仮植え。3月に本植えをした。

8) 平成18年度

①森づくりと管理

夏場に全体の草刈り。10月 藤棚周辺の手入れ。

②植樹（総数14本、累計267本）

植樹祭当日（11月19日）参加した子供たちによって「実のなる木」としてアケビ、クワ、グミ、ナツミカン、キンカン、カキ（禅寺丸）各2本ずつを5カ所に植樹。

12月 カキ2本植樹。

9) 平成19年度

①森づくりと管理

6月、11月 チャの木の剪定。夏場に草刈り。12月 樹木の剪定、下草刈り。

1～3月 樹木の剪定、枝打ち。

②植樹（総数19本、累計286本）

植樹祭当日（11月11日）遊歩道沿いと中央進入路周辺にサザンカ（2）、ヤマボウシ（1）、クマノミズキ（4）、エゴノキ（2）、イロハモミジ（1）の計10本を4組の親子グループで植樹。

3月 遊歩道北側の宅地造成現場より、開発業者の協力を得て、ゴンズイ（6）、ヤマッボウシ（1）、クマノミズキ（1）、ムラサキシキブ（1）の計9本を遊歩道東斜面、当森の広場東平地に移植した。

* 森づくり番外編—多摩遊歩道沿いの緑地開発問題

平成19年、麻生区市民健康の森に接する多摩自然遊歩道の北側（第2章〇頁の地図のG地区）の約1,300㎡に6戸の住宅建設の計画の看板が5月中旬に建てられた（遊歩道北側の斜面に高さ4m、延長30mにおよぶコンクリート擁壁が建設される計画であった）。市の総合調整条例では、近隣住民は事業主に対して要望書を提出できるが、

その期限は6月6日であった。

このため、市、市議会、事業主への働きかけとして近隣3町会、多摩美みどりの会、こもれびの会、当会の6団体で6月4日に書類を提出した。このうち市議会への保全の陳情については、これまでの経緯の記録等を資料として担当の環境委員に配り、説明やお願いをした結果、10月26日の市議会環境委員会において全会一致で趣旨採択となった。これを受けて我々陳情者側は、緑政部には住宅建設予定地の全面取得を、まちづくり局には事業者への指導を働きかけた。

12月に入って両局の担当から話があり、計画が大きく変わったので事業者から聞いて欲しいとのことであった。そこで年末に事業者から説明を受けたところ、かなり計画が変更されていた。遊歩道沿い北側のコンクリート擁壁は6m幅の緑地となり、開発地内を貫通する6m道路が4.5m幅の行き止まり道路と変更となっていた。残される緑地面積は約530㎡で、当初破壊される予定だった約1,600㎡の33%に縮減した。これも運動の中で掘り出された事実から、当初計画の実現が困難になったため、市による開発地域の全面取得にはならなかったが、運動の成果であったと考える。

この案を持ち帰り陳情各団体の代表者に計った結果、現在の情勢下では成果ととらえて受け入れることとなった。

なお、本件については多摩区菅町会のご協力をいただいたことを付記します。

10) 平成20年度

①森づくりと管理

8月 カナムグラの除去、夏場の草刈り。

8月27日 早野聖地公園里山ボランティア4名が来訪、遊歩道沿いの笹刈り、雑木の間伐、広場、畑周囲の草刈りを行った。

10月 ヤマグワの伐採、里山ボランティア講座での間伐予定樹木の選定。

12月 里山ボランティア講座実施、40名参加。クヌギ、コナラ、エゴノキなど14本、ニワウルシ2本を間伐。ヤマユリの植栽準備。

1月 カワズザクラ2本の樹形矯正、クリ5本の剪定。

②植樹（総数64本、累計350本）

4月 ウワズミザクラ2本を広場北側、下の畑の上部に植樹。

7月 ヤマツツジ40本を通路沿い2箇所植樹。

12月 ヤマユリの球根を4箇所の適地に植え付け。

3月 メグスリノキ(2)、カマツカ(1)、ヤマボウシ(3)、ハンカチノキ(1)の計7本を植樹。ヤマツツジ15本を補植。

植樹祭当日は雨天で植樹はできなかった。



里山ボランティア講座での間伐

11) 平成21年度

①森づくりと管理

5月31日 明治大学M-Navi 里山ボランティア
約30名で北斜面の下草刈り。

7月 樹木の剪定、ヤマユリの手入れ。

1～3月 アズマネザサ林に第1次刈り込み（6
m四方）、クズ、カナムグラの除去。西斜面
の下草刈、林床の整理。



明治大学 M-Navi の学生たち

②植樹（総数 57 本、累計 407 本）

植樹祭当日（11月15日） コブシ3本を上の方、2本を下の方に植樹。

12月 コブシ2本を下の方に植える。

3月 ヤマツツジ50本を上の方の周囲に植樹。

12) 平成 22 年度

①森づくりと管理

4月 西斜面の下草刈り、林床の整備。

5月 明治大学M-Navi 里山ボランティア約25名で北斜面下草刈り、枝打ち。
こもれびの会の竹林の孟宗竹30本を間伐。ヤマユリの手入れ。

11月 藤棚の藤蔓の整備。

1月 アズマネザサを覆う蔓の除去、樹木の手入れ、
クリ1本の剪定。

2月 アズマネザサを覆う蔓の除去、東斜面の樹木
の剪定、遊歩道にかかる篠竹の刈り取り。雪と
強風でヤマザクラ2本が倒木、道路公園センタ
ーに処理をお願いした。



クリの剪定

3月 クリ9本の剪定、西・北斜面の枯れ木の調査
（31本確認）。東斜面の樹木、篠竹の整備。西
斜面の枯れ木10本伐採。

②植樹（総数 7 本、累計 414 本）

植樹祭当日（11月7日） 10周年記念植樹としてカツラ（1）、タブ（2）、ヤマ
ボウシ（1）の計4本を植樹。

2、3月 コブシ2本植樹。会員のYさんから寄贈された高野マキ1本を移植した。

13) 平成 23 年度

①森づくりと管理

4月 西斜面の枯れ木の伐採、カントリーヘッジ
の設置。

5月、6月 樹木、ヤマユリの手入れ。

7月 管理棟を覆っているヤマザクラ1本を台
風前に伐採（道路公演センター手配）。

8月 西斜面の枯れ木の伐採、カントリーヘッジ
の設置。枯れたオオモミジを伐採。



カントリーヘッジの設置

12月 クリ9本の剪定、藤蔓の剪定、セイタカアワダチソウの除去。

1月 東斜面の樹木、篠竹の剪定、遊歩道両サイドの笹の刈り込み。

2月 アズマネザサを覆う蔓の除去、枯れ竹の伐採、撤去。

3月 西斜面の枯れ木の伐採、カントリーヘッジの設置。アズマネザサを覆う蔓の除去。

②植樹（（総数3本、累計417本）

植樹祭当日（11月20日）ヤマボウシ3本を3班に分かれて植樹。

*平成13年以来、約420本の植樹を行ってきたが、育成環境が悪いのか、水不足のためか、その後の手入れが悪いのか約3割程度が活着せず枯れ死した。木の特性に合った植え付け場所の選定、渇水期の水遣り等の手入れが必要である。

2. 畑の管理分科会

1) 平成13年度（市民健康の森を育てる会準備会）

①畑の開墾

5月12日 畑の位置（上の広場）を決定。2ヶ所各4畝とした。

5月26日 開墾開始。草刈りとアズマネザサの根の退治から始まり、分科会として15名がメンバーとなり、作業には会員全員が参加できる形とした。農具は資金が少ないため、まず鍬3、スコップ1を購入し不足分は個人、行政より借用して行なった。化学肥料や農薬は使わず牛糞堆肥と米ぬかだけを使用した。堆肥や苗は近くの大塚牧場や古沢の農家等から購入した。



育てる会準備会による畑開墾
さつま芋畑に（平成13年度）

②作付け、収穫など

- ・里芋……5月26日、種芋50株植え付け。11月150kg収穫、12月種芋として室を作り保存。
- ・さつま芋……6月苗50本植え付け。11月50kg収穫。
- ・野菜類……9月白菜、ほうれんそうなど6種類播種。11月玉ねぎの苗200本植え付け。野菜類は条件がうまく合わず収穫は満足いくものではなかった。
- ・大麦……11月播種。2月麦踏み。

2) 平成14年度

作付けも2年目に入り、昨年不作であった野菜類は中止し、新たに大麦収穫後にそばを播種。さつま芋は作付面積を去年の倍にし、日当たりの良い上段の畑に、里芋は日当たりのあまり良くなく湿気の多い下段の畑に作付した。

①作付け、収穫など

4月に畑の耕運を行い、里芋は5月に植え付け、



里芋の植付け

11月に収穫、貯蔵。さつま芋は6月に植え付け10月に収穫。いずれも豊作であった。大麦は昨年初めての作付けで、作柄が心配されたが、なんとか5月、収穫にこぎつけた。細山資料館より農具を借り入れたり、民家園の水車を活用して脱穀を行った。そばは害虫の被害にあい蕎麦粉にするには至らなかった。



麦の刈り取り

②収穫物の活用

植樹祭&収穫祭でさつま芋、里芋が活用された。さつま芋は子供たちが喜ぶ焼き芋に、里芋は豚汁。とくに里芋は皆さんから美味しい、美味しいと評判がよく、お土産としても100袋も浄財として貢献した。大麦は金程小学校5年、6年生の総合学習の教材として活用された。



子供たちとさつま芋掘り



そば刈り

3) 平成15年度～平成20年度（6ケ年）

この6年間の作付けは里芋、さつま芋、大麦、小麦、そばの5種類で、小麦は初めての作付けであった。作付け、収穫の時期も多少の日数の差はあっても、ほぼ同時期になっている。

収穫については、里芋は例年豊作、さつま芋は出来・不出来が激しく平成18年度は100本しか収穫できず、植樹祭&収穫祭の焼き芋には足りずに別途購入することになった。大麦は例年問題ない収穫、小麦は初年度は試験栽培で収穫はほとんどなし。20kg以上の収穫がないと製粉を受け付けてくれない条件もあり、平成16年度、19年度の2回製粉ができた。そばは例年不作、やせ地に強い作物と聞いているがなかなか難しい。

里芋、さつま芋は収穫祭に、大麦、そばは小学校の総合学習の教材に、小麦は製粉ができた平成16年は収穫祭のお土産、また手打ちうどんを作り会員で美味しくいただいた。平成19年度、20年度は収穫祭でのバームクーヘンの材料とお土産となった。

4) 平成21年度～平成22年度（2ケ年）

この2年間の作付けは、前6ケ年の里芋、さつま芋、大麦、小麦、そばに加えて、ビール会社のご好意でビール麦（二条大麦）とヒエ、アワを新たに作付けした。

収穫は、里芋は例年通り豊作、さつま芋は平成21年度は100本程度で不作、22年度はマルチをしたがほとんど収穫はなかった。3種類の麦類とそばは例年通りであった。

収穫物は里芋、さつま芋（ほとんど購入となった）は収穫祭に使用。里芋は豚汁のほかに茹で芋にし柚味噌で食べて好評であった。麦3種は西生田生小学校3年生の総合学習で麦茶作り、3種の麦の名前当て、それぞれの利用のされ方の説明などの教材に使用された。ヒエ、アワは日本の五穀の説明に利用された。



菜の花とレンゲが咲く森の畑

5) 平成23年度

この年は作付けの大幅な変更を行なった。さつま芋は例年不作が続いたため中止。麦類、ソバも近所のそば屋さんが閉店になり、小学校の総合学習で行なってきた「麦の学習」「そばの学習」ができなくなったため中止。代わりに里山風景に合う菜の花、レンゲを新たに加え、また枝豆も少量であるが苗を植え、里芋とあわせて4種類の作付けを行なった。

収穫物は、里芋は収穫祭で豚汁と茹で芋に利用。菜の花と枝豆は2ヶ月に一度の作業終了後の懇親会で食された。

3. 施設、工作分科会

1) 平成13年度（麻生区市民健康の森を育てる会準備会）

①施設、工作

10月 畑、苗床、通路などに案内板および表示板を設置。

11月 会員提供のヒマラヤ杉の丸太廃材を使い、広場中央に腰掛け、ベンチを製作する。

1月 孟宗竹を切り出し、里芋畑のかたわらに堆肥用の枠を作成。

3月 遊歩道沿いの笹藪地内が無断で乱伐され、危険なため笹の根株を切り取り、周辺に柵を設置し、立ち入り防止のロープを張る。後日、北部公園事務所で用意してもらったお願い板2枚、立ち入り禁止板3枚を設置。

②購入物品

農作業用の鍬3本、スコップ1本購入。

2) 平成14年度

①施設、工作

10月 物置小屋（1棟）の搬入、組立、設置。テーブルの天板および長椅子の製作。

11月 行政より間伐材等の支給を受け大型作業台とベンチを製作。

②購入物品

電動ドライバー、斧、鉋を購入。

3) 平成15年年度

①施設、工作

4月 2棟目の物置小屋の搬入、組立、設置。

1月 藤棚用に孟宗竹40本を切り出す。早野聖地公園里山ボランティア管理地内の

檜の間伐材を藤棚用に切り出す（代表の友部常松氏の指導を仰ぐ）。

2月 間伐した檜の引き出し、運搬。桧木の丸太の皮むきなど。藤棚製作作業。

3月 柱立て用の穴掘り、床固め、底板石設置、柱の甘皮剥き、根元の焼入れ、梁丸太の加工など藤棚製作作業。24日に無事上棟した。指導戴いた友部氏に感謝。



藤棚の上棟

②購入物品

（財）都市緑化基金より多大な助成金をいただき、小型発電機、ガーデンシュレッダー、動力刈払機、脚立、高枝鋏み、スコップ、鋏、鎌などを購入。これで作業を行う機材、農具がほぼそろい、物置小屋2棟に収納された。



2棟の物置小屋

4) 平成16年度

①施設、工作

4月 藤棚製作の総仕上げ（梁の上部に孟宗竹の棚の製作など）。

5月 友部氏を招待して藤棚のお披露目会。南東の柱に「平成一六年三月吉日建之一棟梁 友部常松氏」の墨書。

11月 倒木した桜の木を利用して樹木の名札を製作。植樹祭・収穫祭前に名札掛け。

②購入物品

とくに大きな物の購入はなかった。

5) 平成17年度

①管理棟

平成12年3月に策定された「麻生区市民健康の森推進計画」の中に、すでに管理棟は計画されていた。平成17年時点で道具が置ける2棟の物置小屋は設置されているが、幹事会では1年あるいは2年先を見据えて会議ができる本格的な管理棟建設のお願いを北部公園事務所に提出することが決定された。4月の第3回通常総会終了後の幹事会で施設、工作分科会の2名の担当幹事を含めて8名の委員からなる「管理棟設置委員会」が設置された。

5月12日に第1回の委員会が開催され、7月末まで計4回に亘る委員会での検討を経て9月6日、正式に北部公園事務所長宛に管理棟建設についてのお願い書を提出した。

その後、公園事務所より管理棟の必要性の詳細を提出するよう要請があり、当会の定期・不定期の活動内容の詳細を説明した管理棟の必要性を取りまとめ、10月17日に提出した。

3月の川崎市議会に本件は予算措置を含め上程された。

②施設、工作

11月 ヤマユリ園の竹囲いを設置。

3月 多摩美の森で犬のリードをはずして散歩をする飼い主が多く、会員とのトラブルが絶えないため、これを防止する看板5枚を設置。

③購入物品

特になし。

6) 平成18年度

①管理棟

4月 第4回通常総会において北部公園事務所より今年度中に管理棟が建設されるという報告を受ける。これを受けて5月より北部公園事務所と4回にわたって打ち合わせが行われた。

5月 第1回打ち合わせ。管理棟、トイレの位置決定。管理棟の規模とその詳細は、公園事務所とまちづくり局との間で調整されることとなり、トイレは近隣の下水道設置の目処がつくまでは循環式トイレの設置を検討することになった。また、既存の2棟の物置小屋は、新たに建築基準法上の手続きが必要であるうえ、別途活用先があるため撤去されることが決定した。

7月 第2回打ち合わせ。工事用重機が入るため、多摩自然遊歩道からの進入路を補強し、その入口に健康の森の活動紹介と公園案内を示す看板を新設することが決定。天水利用施設は今回設けないこととなった。

10月 第3回打ち合わせ。管理棟の規模は、管理室：2間×3間（6坪）、倉庫：1間×2間（2坪）となり、構造は鉄骨プレハブ構造となった。

1月 第4回打ち合わせ。公園事務所より管理棟および付帯設備の最終図面が提示され、2月より着工となった。

3月 2月に着工した管理棟は一応完成（竣工検査待ち）。

②施設、工作

7月 藤棚作りをしたときの檜丸太の余材を活用して4脚の丸太ベンチを製作、設置した。

11月 里芋の種芋を保管する室を4～5年は使えるよう孟宗竹で頑丈に作成。

7) 平成19年度

①管理棟

4月 管理棟竣工検査。道具類を物置小屋より新設の倉庫に移設。

麻生多摩美の森の会会則を改訂し、多摩美の森の家運営委員会を新設し「多摩美の森の家利用規定」を制定した。

5月 倉庫内に鍬、鎌掛け製作設置。

7月 会員から要望の屋外バイオトイレ完成。

「麻生鳥のさえずり公園」の看板進入路入口



管理棟とバイオトイレ（右奥）

に設置。

管理棟の開所式開催。管理棟室内の備品について公園事務所と協議。

9月 管理棟内に木製の整理棚設置。

2月 管理棟に「多摩美の森の家」の看板を設置。

②施設、工作

9月 腐食が進んでいた藤棚の4本の柱を防腐処理された檜材の柱に交換。

③購入物品

特になし。

8) 平成20年度

①施設、工作

9月 藤棚の4本の梁に茸が繁殖し腐食が進んでいるため防腐剤を塗布。

1月 藤棚下のテーブルの脚の腐食が進んでいるため、倒木したヤマザクラ丸太4本を交換用に防食処理。

2月 藤棚上部の竹棚の腐食が激しいため撤去し、新たに孟宗竹の棚に交換。

②購入物品

3月 水道がある水回り排水処理のための塩ビパイプ、材木を購入。また、管理棟周辺への砕石敷設用の砕石2種類4m³購入。デジタルカメラ、プリンター購入。

9) 平成21年度

①施設、工作

4月 水回りに砕石敷き、U字溝を使った排水設備工事。

5月 森の家の周囲に砕石敷き。

7月 多摩美公園進入路の階段部整備。

9月 前年度用意した藤棚下のテーブルの脚4本交換。

会員からいただいたスチール製倉庫(2坪)を解体、移設、組立。

12月 会員からいただいたコンクリート製縁石、自然縁石を森の家の周囲に敷設。

②購入物品

2月 ロッカー購入。

10) 平成22年度

①施設、工作

6月 藤棚下のベンチの腐食が激しく、新たに4脚交換。

10月 カブトムシのお宿を孟宗竹で1ヶ所新設。

②購入物品

ベンチ4脚、プロパンガスと機器一式購入。

11) 平成23年度

①施設、工作



排水設備工事

- 4月 倉庫内の工具類の整理、整頓。山のゴミ収集。
- 5月 ヤマユリ園の柵新設。
- 10月 藤棚下のテーブルの天板の傷みがひどく、防食された木材で取り替え。
- 3月 刈り払い機の刃を取り替え。

②購入物品

テーブル用防腐処理の材木、刈り払い機の替刃を購入。

4. 動植物観察分科会

多摩美の森周辺には、多摩丘陵の里山らしい生物の多様性に富み、豊かな生態系の森が続いている。植生について具体的には第5章「麻生区市民健康の森植物リスト」に示す通りである。多摩美の森の会では、毎年観察会を開催している。ここでは、会報と年次報告書から観察記録の一部を紹介するが、森の豊かさ、楽しみが充分味わえると思う。

1) 平成13年度

初年度は独自の活動ができず、全体活動の中で植生変化などの自然観察を行った。

①植生変化

6月頃までにクズとヒルガオ、カナムグラなどの蔦植物が繁茂し、9月にはアメリカカイヌホウズキ、セイヨウヤマゴボウ、アメリカセンダングサ等の帰化植物のほかアキノノゲシ、ママコノシリヌグイ、ミズヒキなどが観察された。

②カブトムシのお宿

6月16日に金程小学校5年生がカブトムシのお宿づくりを行ったが、時期が遅く今年は卵には間に合わないのではと心配したが、11月にはたくさんの幼虫が観察された。

③野鳥の観察

シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、コゲラ、シメ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、メジロ、アオジ、ジョウビタキ、モズ、ヒヨドリ、ムクドリ、ヤマバト、ハシブトカラスが観察され日本女子大の森ではアカゲラの鳴き声と木を叩く音が聞こえた。枯れ松にそれらしき巣がある(コゲラの巣穴にしては少し大きい、アオゲラか?)。3月にアカゲラを確認した。

④蜘蛛の子のバルーンング

11月24日、快晴で無風の中、蜘蛛の子どもが大空に飛び立つのが観察できたのは感激であった。庄内平野で時折見られる光景とテレビで知っていたが、実際に見たのは初めてであった。どこからともなくキラキラ、フワフワ、糸が流れてほんのわずかな上昇気流で一気に糸がまっすぐ空に上がると、その末端に黒い点(蜘蛛の子)が糸に引かれて舞い上がるのはロマンチックな光景である。これはバルーンングといって多くのクモ



蜘蛛 風に乗って空へ旅立つ
(バルーンング)

の種類に見られる現象である。

2) 平成 14 年度

5月4日、市民健康の森区域の自然観察会を行った。以下その内容である。

①観察された野鳥

- ・目視：ヒヨドリ、ムクドリ、コゲラ、シジュウカラ、ハシブトカラス、スズメ、ツバメ、カワラヒワ。
- ・鳴き声：ウグイス、コジュケイ。

②観察された昆虫

シオカラトンボ、ナナホシテントウムシ。

③観察された植物

- ・花が咲いていたもの：アマドコロ、オオイヌノフグリ、カラスノエンドウ、シヨカッサイ、カントウタンポポ、キツネアザミ、タネツケソウ、ハルコグサ、ニガナ、ハコベ、ハルジョオン、ムラサキケマン、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ヒルガオ。
- ・結実していたもの：イヌムギ、タネツケソウ、ナズナ、ヘビイチゴ。
- ・新芽が出ていたもの：(木本)アズマネザサ、キイチゴ、クコ、シデ類、ヌルデ、ミツバアケビ、モミジ、ヤマグワ。

(草本)セイヨウヤマゴボウ、アメリカセンダングサ、イタドリ、オオアレチノギク、イノコズチ、ウド、オオバコ、オオマツヨイグサ、キュウリグサ、カナムグラ、ギシギシ、クズ、シロザ、ジシバリ、タケニグサ、タチツボスミレ、チジミグサ、スギナ、ススキ、ドクダミ、セリ、ヒメムカシヨモギ、ブタクサ、タデ、ママコノシリヌグイ、ヨモギ、ムラサキツユクサ、ヤエムグラ、ヤブカラシ、ヤマイモ、ヌカボ、ノアザミ。

3) 平成 15 年度

①野外観察指導講座

9月21日、多摩美の森で樹木研究家の北澤清先生を招いて野外観察指導講座を開催した。多摩美の森とその周辺の樹木の観察を行い、アワブキやサワフタギ、モミの大木など珍しい樹木があることが分かった。あいにくの雨模様で観察を終了し、場所を近くの蕎麦屋さんに移し、多摩美の森の楽しさや森づくりのアドバイスを伺った。



蕎麦処での北澤清先生の講座

日を改めて11月16日、植樹祭&収穫祭にも先生に来ていただき、森にある木の枝や葉を教材にして、それぞれの木の特徴や冬芽のことを伺った。

②ルリビタキの発見

1月4日、仕事始めの日にルリビタキを発見。亜高山帯の鳥なので、この辺にはいないと思っていたが、冬には里に降りてくることもあるそうだ。空色に輝く羽は綺麗であった。

4) 平成 16 年度

冬の森の観察会

2月6日、自然観察指導員の高橋英さんを招いて第1回の観察会を実施。木々の冬芽を中心に勉強をした。普通、樹木の観察は春から夏の時期が良いとされているが、冬ならではの楽しさ、面白さがあることが分かった。冬芽には植物が生きるための知恵が込められていることなど実に興味深いことも分かった。

- 主芽と副芽（予備芽）

順調に行けば主芽がすんなり成長し、副芽は消えていく運命にあるが、厳しい寒さで主芽が傷んだり、虫に食われたりした時には副芽の出番となって役割を果たす（アカメガシワ、エゴノキ、ムラサキシキブなど）。

- 鱗芽と裸芽

冬芽は寒さ、乾燥、虫食いなどを防ぐため芽鱗で身を被って守っている。これを鱗芽という。暖かい地方に生える樹木には芽鱗のない裸芽も多く、細かな毛の生えているものも多い（エゴノキ、イヌシデ、アカメガシワなど）。

- 葉痕ソックリさん

葉がついていた痕を見るのも面白い。円形、半円形、三角形と形が多彩なだけではなく「人面魚」ならぬ「羊面葉痕」など、実にソックリでユーモア溢れる自然の造形には目を見張らされる（オニグルミ＝羊、ニセアカシア＝こうもり、シンジュ＝よだれ掛け、クサギ＝キウイの断面などなど）。

5) 平成17年度

①新緑の森の観察会

5月16日、高橋英さんの指導で新緑の森の観察会が実施された。麻生区市民健康の森は樹木や野草の種類が豊富で自然豊かな森である。その豊かさを知るためにも、植物それぞれの個性を観察し、楽しみが倍加することが今回の観察会の狙いである。観察会のエピソードを一部紹介する。

- アワブキの観察

樹木の中でもとりわけ特徴のある「アワブキ」を観察。花は小さく、散った後も泡のよう？ 秋には赤い小さな実をつける。この木は、燃やしたとき切り口より「泡」を吹くため、焚き木としては余り好まれない。焚き火などにくべると火を消してしまうくらい泡が出る。



アワブキの花穂

- ギンランとキンラン

野草観察の中で、貴重種の一つ「ギンラン」を一観察者が発見。高橋さんより「近くにキンランはないでしょうか？」するとその近くに黄色みを帯びた花一輪。キンラン・ギンラン同時発見と一同歓喜に沸くが先生曰く「これはギンランの花期が終わりになったもので、キンランではありません」一同がっかり。

- 森の中の美味しいもの

ニセアカシア（別名ハリエンジュ）の白い房状の花は、天麩羅にさせていただくと香りもよく美味しい。クズのつる先芽も天婦羅に良い。他にもチャヤカキの若葉も天婦羅にすると美味しい。一同「ぜひ食べてみたい」。

②市民健康の森とその周辺の植生調査

特定非営利活動法人「かわさき自然調査団」によって麻生区市民健康の森、こもればの森、多摩美ふれあいの森の3ヶ所で4月18日、5月17日、9月13日の3回調査が行われた。調査内容は植物（樹木、草）、鳥、昆虫であった。

9月22日、「川崎市青少年科学館」で「第4回市民が考える植生管理（麻生区市民健康の森とその周辺を考える）」をもとに植生調査報告がなされた。その後、参加者によるグループ別のワークショップが行われた。ここでは当森に関する報告、ワークショップでの論議を示す。

* 植生の特徴

- ・落葉樹の苗は混植され、密度もかなり高く植栽方法は理想的と判断される。
- ・草地に植栽したあと施肥されたもようで、畑地の雑草が地表を覆い乾燥を防いでいる。草刈りは年2回以上実施されており、現状が維持される。
- ・草木層には落葉樹林の種が次第に侵入してきている。
- ・植栽樹の伸長は正常で枝張りも大きく樹勢はきわめて良好な状態であった。

* 今後の植生の推移と選択肢

下草刈りは植栽後5年間、年2回程度実施されれば良い。下草の畑地雑草は次第に衰え、落葉樹が増加するとみられる。植栽した樹木がさらに成長すると、次第に樹木間の競争が起きる。

その時の選択肢として

- ・成長に差が出てきた時に劣勢な樹木を間引きして伐採する。この方法は高木だけが育つ。
- ・劣勢になった樹木の台切りをして萌芽を育てる。高木ないし低木が同時に育つ。
- ・自然競争に任せて、樹木の伐採や間伐はしない。
- ・下草刈りは年1回程度、冬に行う。
- ・樹木の下で種々の活動が出来るよう、高木だけを伸ばし、その下は草原状態にする。

考察として草本層では、畑地草系25種、山野草系17種でまだまだ畑地草が多い。今後は山野草系を増やす方向にしたらどうか。

* 昆虫

目視法で行った。生田緑地と良く似ている。オオミドリシジミ、ミズイロオナガシジミなどが多く、ハナムグリが非常に多い。黒川、柿生と同等であった。

* 鳥

目視法で行った。たくさんの鳥のさえずりが聞こえ、生田緑地と同等ではないだろうか。野鳥類は、森と餌がないと来ない。草地を刈らずに残すとか落葉を残すとかが必要。

*ワークショップでの論議

調査結果を踏まえ今後森をどのように管理育成をすれば良いか意見交換をした。

主な論点は

- ・北斜面の植栽は、混植よりも常緑樹林を心がけてきたがどうか？ 外周道路との関係で、暗い林となるのが良いのでは。
- ・西斜面の植生は今後どのように管理すべきか？ 倒壊しそうな山桜を含め熟慮が必要。
- ・広場の樹木下草はどのように管理すればよい？ 傾斜地下までの刈り込みは中止して、一部の地帯を残してはどうか。
- ・ウグイスのお宿の篠竹の更新はどうする？ 一部分をテスト伐採をしてはどうか、いや今のままで保存したほうが良く枯れることはないなど、意見は白熱したが時間切れとなった。

③第3回植物観察会

12月3日、講師に高橋英さんを迎え、初冬の多摩美の森の観察会を行った。残っている紅葉や実、種子、冬芽など実に興味深いものがある。紅葉の絶妙な配色、種子の不思議な知恵や秘密など、自然の素晴らしさを改めて実感した。また、この土地固有の種の保存の大切さが分かった。

6) 平成18年度

①第4回植物観察会

5月14日、新緑がまばゆいばかりに光を受け、高橋英さんを講師に迎えて定例の植物観察会が行われた。今草花を中心にウグイスやホトトギスの声を聞きながらの観察会となった。

雑草の代名詞で一見似ているハルジオオンとヒメシオンの違いは、開花する時期と丈が微妙に違うこと。最近あちこちでよく見かける地中海原産のナガミヒナゲシがここにもあること。ヒメオドリコソウ、ナズナ、キンランなどルーペでよく見ると可愛い花ばかり。タチイヌノフグリ、ヤブジラミのようにちょっと可哀想な名前なのに可愛い花もある。棘のないキツネアザミやバラの原種であるノイバラなどは今が花盛り。ハンショウズルやツルウメモドキ、コゴメウツギなど、この季節でないと気がつかないものもある。様々な雄しべと雌しべの様子、繁殖の特徴や葉草としての効能、毒性など高橋さんの豊富な知識による説明を楽しんだ。

②第5回植物観察会

今回は実の観察を主に行った。西生田小学校3年生の総合学習の一環としての自然観察学習の指導にも役立つことができた。（詳細の資料なし。）

7) 平成19年度

①第6回植物観察会

5月26日、今回は市民健康の森とこもれびの森に沿った多摩自然遊歩道にある樹木と野草の観察を行った。藤棚の下で講師の高橋英さんより、当会が発行した樹木・草花の写真集3部作と北澤先生による森の植生スケッチ「樹木ウォッチング」

の説明がなされ散策開始（第6章に掲載）。

「雑木林の観察はクヌギとコナラの区別がつけば80%OK」との講師の話の思い出しながら、アラカシとシラカシ、クマシデとイヌシデの違いを教わった。ここではアジサイは西洋アジサイだけでコアジサイ、ヤマアジサイなどはないとのこと。また、健康の森にはないヤマコウバシ、ハリギリ、実の美しいゴンズイ、アオハダ、ヤブムラサキ、コバノガマズミなどの実生の幼木が見つかった。



第6回植物観察会

②第7回植物観察会

秋に観察会を行ったが日付け、内容などの詳細資料はなし。

③タンポポ通信

多摩美みどりの会が保全している「日本たんぽぽ園」は、今では珍しいカントウタンポポの自生地だが、ここ数年開花が少なくなった。ある方から、土がやわらかくなりすぎないように踏むこととのアドバイスをもらい、草刈りして「保護」するだけでは駄目だと痛感した。そのカントウタンポポが、市民健康の森の藤棚から遊歩道寄りの平地などに増えてきた。



カントウタンポポ

1会員がカントウタンポポの繁殖状況などの調査を続けているが、昨年このエリアには184株咲き、今年は2~3割増とのこと。たんぽぽ園は昨年170株前後だったが今年は248株。多摩美ふれあいの森の山道沿いにも群生が確認されている。多摩美の森一帯のシンボルになりそうである。

「たんぽぽ」の名称は、柳田国男説では、別名「鼓草」というように、花軸の両端を裂くとクルクルと丸まる形が鼓に似ていることから、鼓を打つ音「たんぽん」からきたなど、色々な説があるが欧米では「ダンデライオン」と呼ぶ。ダンデはデンタル=歯のことで葉のギザギザがライオンの歯だという。ダンデライオンと呼ばれるセイヨウタンポポにも愛着が感じられるが、ここ多摩美ではカントウタンポポの群生を大事な仲間として見つめ、保全していきたい。

8) 平成20年度

①第8回植物観察会

初夏の観察会が6月28日に実施された。高橋英さんのガイドで麻生多摩美の森周辺を、多摩自然遊歩道から多摩美ふれあいの森の山道へと歩いた。この森では、よく目立つ高木のほか、ふだん見過ごしている「小さな木」の中木・低木・林床草本が実に豊富に育っていることに改めて気付かされた。

そこで日を改めて7月11日に高橋さんの指導を受けて、中木・低木を中心に簡易調査を行った。遊歩道付近の東斜面には、高木のコナラ、クヌギ、スギがあり、そ

の下に中木のアカメガシワとヌルデが元気に伸び、さらにはニワトコ、シラカシ、アラカシ、若いコナラ、エゴノキ、エノキが競い合うように枝を広げている。その下方には、カマツカ、ゴンズイ、ムラサキシキブ、キブシ、ヤマグワ、サンショウ、タラノキ、ガマズミ、ツルウメモドキ、アオキなど。さらには地面近くに低木のコゴメウツキ、モミジイチゴ、ニガイイチゴ、サルトリイバラなどが息づき、細かく調べると幅20mほどの範囲に30種類以上はありそうだ。

アカメガシワやヌルデは草原が森に変わる際に、まず成長する「森づくりのパイオニア植物」。やがて林が育ち、林内や縁にはやや日陰でも育つムラサキシキブやゴンズイなどが生え、美しい実で野鳥を呼び寄せる。こんな風にして植物・動物相が豊かになっていくのが雑木林の仕組みだ。そして、枝が強いカマツカは鎌の柄や、別名ウシコロシと呼ぶように牛の鼻輪に使われ、ニワトコは赤い実が果実酒、幹の髄が顕微鏡観察の切片作成用のビスにされ、ヤマコウバシの葉は飢饉の時に食用とされるなど、多彩な植物が人びとの暮らしに恩恵をもたらしてきた。

②ヤマユリ通信

ヤマユリが今年も見事に咲きました。花期は7月上旬から下旬までの1ヶ月、一つの株の花は1週間程度でしたが、次々と花を咲かせ我々を楽しませてくれました。20年前までは、多摩美の森とその周辺に沢山の自生のヤマユリが咲いていましたが、盗掘とこのあたりの森の樹木の成長に伴う日照の減少によりほとんど見ることは出来なくなりました。数年前から配布された球根を植えてきましたが、3度目に成功し昨年から花が咲くようになりました。ヤマユリは神奈川県の花です。これは昭和29年NHKなどが全国から葉書投書で公募し、各県の花を選んだ時に決まりました。（ちなみに麻生区の花と木は平成24年麻生区政30周年を記念してヤマユリと禅師丸柿に決まりました。）当時はヤマユリが日本固有のユリであり、栽培も輸出も神奈川県中心に行われていたからです。



ヤマユリ

ヤマユリは繊細で栽培が難しいとされていますが、適度の日照と水気があり、病害虫を避けることができれば鉢植えでも花を咲かせることができます。麻生区では「ヤマユリ栽培普及委員会」が栽培方法の講習会を行っています。またこの近くでは、国立武蔵丘陵森林公園のヤマユリが見事です。1万本のヤマユリが自生し、毎年約3千本が開花、群れて咲きます。見頃は7月下旬から8月上旬です。

ヤマユリは繊細で栽培が難しいとされていますが、適度の日照と水気があり、病害虫を避けることができれば鉢植えでも花を咲かせることができます。麻生区では「ヤマユリ栽培普及委員会」が栽培方法の講習会を行っています。またこの近くでは、国立武蔵丘陵森林公園のヤマユリが見事です。1万本のヤマユリが自生し、毎年約3千本が開花、群れて咲きます。見頃は7月下旬から8月上旬です。

9) 平成21年度

①第9回植物観察会

5月16日、高橋英さんを講師に春の観察会を実施。今回は森の草木中心で20名が参加した。詳細資料は残っていない。

②第10回植物観察会

11月28日、初めて多摩美の森を離れて、文京区の六義園を訪れた。この庭園は、よく知られている通り元禄時代の老中、柳沢吉保の創設なる回遊式日本庭園で、現在の公開面積は約8.8haを有する広大かつ優雅な名園。その名の六義とは、中国最古の詩集「詩経」の6種の詩の分類に倣って古今集仮名序で定めた和歌の分類の文体をいい、これを造園のベースにしたというから、誠に風雅の極みというべきである。当日は好天に恵まれ、駒込駅直近の染井門から入園。入ったばかりの1本道は両側とも中、高木が生い茂り薄暗い道。その奥の方の真っ赤な小さい実が房状に沢山ついている高い木はイイギリといい、昔はその葉でご飯を包んだので飯桐といったそう。有名なシダレザクラの脇を通り池の方に行く右側に見事に紅葉したイロハモミジ数本があり、さらに池の縁に沿って行くと、スタジイ、クスノキ、イヌシデ、コナラ、ケヤキとお馴染みの木が目に入るが、どれも堂々たる風格の巨木だ。また、タイサンボク、ネズミモチ、モッコクなども、こんなに大きくなるものかと感心させられた。特に、目通し1mを超えるかと思われるトウカエデの大きさには圧倒された。



トウカエデの巨木

10) 平成22年度

第11回植物観察会

4月28日、高橋英さんの指導で、今回のテーマは帰化植物。多摩美の森にはどれくらいの帰化植物があるか、そして在来種はどんな状況にあるのか皆で見て歩いた。一般的に帰化植物とは江戸時代末期から現代にかけて意識的・無意識的に入ってくるものが多いそうだ。川崎市の帰化植物状況は、最も帰化率の高いのは川崎区で70%、最も低いのは麻生区の30%だそうだ。さて多摩美の森はどうなっているのか興味津津でスタートした。



第11回植物観察会
帰化植物と在来植物調べ

主として80種の草花を対象に帰化種と在来種に分けてみた。帰化植物で有名なセイトカアワダチソウやハリエンジュなどは抜いても抜いても生えてくる。一見可憐な花を咲かせるセリバヒエンソウ、ハナカタバミ、ナガミヒナゲシなども帰化種。帰化植物は一般に猛烈な繁殖力を持っているのが困りものだ。貴重な在来種としてこの森には少ないながらミズタマソウ、アマドコロ、マルバコンロンソウなどがあつた。結果として多摩美の森の草花は帰化率34%であった。

樹木については帰化種はシンジュやハリエンジュなど数本で、さすがにほとんど帰化種はなかった。里山として緑地の保全・管理をする多摩美の森は、極力外来種の侵入・拡大を防ぎ、在来種の植物を守って行かなければとの思いを新たにしたい。

11) 平成23年度

①第12回植物観察会

10月6日、日本女子大学人間社会学部の田中雅文教授のご好意で、なかなか入れない女子大構内の東南部の森の観察会を行った。緑に関するボランティア8団体、29名が参加し講師は高橋英さん。最初に田中教授より女子大構内の森の管理に関する全体計画の説明がなされた。



日本女子大の森の観察。
田中教授の全体説明

その後、森の手つかずの自然に残る多くの在来植物を観察した。特に印象に残るのはハナイカダがあちらこちらに見受けられたこと。ハナイカダはミズキ科の落葉低木、別名「嫁の涙」といわれ葉の上に花が咲く。名の由来は「花筏」であり花が乗った葉を筏に見立てたとのことらしい。

また、試験的に30m四方の開伐が行われており、萌芽更新はまだ見られなかったが、雑木林の再生過程も見学できた。

②14回植物観察会

3月18日、3回目の外部遠征で県立座間谷戸山公園にて観察会を実施。この公園は平成5年に開園、総面積30haに及ぶ広大な敷地を持つ。ここでボランティア9団体が独自の活動を行っているとのこと。



県立座間谷戸山公園での観察会

特にサンクチュアリという区域は全体の1/3を占め、野生生物を守るため立ち入りを制限している。野鳥観察小屋もあった。そのほか、シラカシ観察林（放置された雑木林＝極相林が観察できる）、スギ・ヒノキ観察林（管理された人工林が観察できる）、クヌギ・コナラ観察林（管理された雑木林が観察できる。）等々、それぞれ麻生区市民健康の森の管理にも非常に参考になる観察林であった。また、公園の最高所で約3000㎡の開伐が行われており、すでに萌芽更新が見られた。今後、数年後の雑木林の再生過程を再度訪問して観察するのが楽しみである。

5. 広報分科会

広報分科会は平成15年度、広報紙「麻生多摩美の森だより」の創刊を期に設置された。但し、それ以前の2年間も広報活動は行ってきた。

1) 平成13年度

植樹祭&収穫祭などの各種イベントについて、市政だより、各種タウン誌などの催し物ガイドで紹介してもらった。

2) 平成14年度

①各種イベントについて、市政だよりほか各種タウン誌など催し物ガイドで紹介して

もらった。

②平成13年度麻生区市民健康の森活動報告を作成し、会員、関係先に配布した。

3) 平成15年度

①各種イベントについて、市政だよりほか各種タウン誌など催し物ガイドで紹介してもらった。

②平成14年度麻生区市民健康の森活動報告を作成し、会員、関係先に配布した。

③本年度より年4回、広報紙「麻生多摩美の森だより」を発行することになった。第1号は6月30日、第2号は9月30日、第3



広報紙「麻生多摩美の森だより」

号は12月20日、第4号は3月31日に発行した。これは会員全員に配布すると同時に、町会その他の援助団体、麻生区役所、麻生市民館などに置いて興味ある方に持って行っていただくことにした。また、会員からの意見、希望その他トピックスなどの投稿を呼びかけた。

4) 平成16年度～平成20年度

①各種イベントについて、市政だよりほか各種タウン誌など催し物ガイドで紹介してもらった。

②前年度の麻生区市民健康の森活動報告を作成し、会員、関係先に配布。

③広報紙「麻生多摩美の森だより」を年4回発行し、会員ほか関係先に配布した。

5) 平成21年度

①各種イベントについて、市政だよりほか各種タウン誌などに催し物ガイドで紹介してもらった。

②前年度の麻生区市民健康の森活動報告を作成し、会員ほか関係先に配布。

③広報紙「麻生多摩美の森だより」を年4回発行し、会員ほか関係先に配布。

④懸案のインターネットホームページの作成を開始。市民健康の森の紹介、活動状況、イベント情報、多摩美の森の植物たち、森の家案内、アクセスなどのコンテンツで制作を開始する。

6) 平成22年度

①～③は前年度と同様。

④のインターネットホームページは今年度公開スタートする予定であったが作成作業の途中までで、実現できなかった。

7) 平成23年度

①～②は前年度と同様。

③広報紙「麻生多摩美の森だより」は今年度より年3回(5、9、1月)の発行となり、第33、34号を9月、1月に作成し会員ほか関係先に配布。

④インターネットホームページは、前年度の報告では今季前半には公開するとしたもの

の、実現できず反省している。なお、川崎市のホームページの麻生区サイトで「麻生多摩美の森だより」をアップしていただいているが、一例として、これが西生田中学校1年生の総合学習、地域インタビューの一次情報源となった。このようにインターネットでの情報発信の意味は大きいので、自前のサイトを持つように努力したい。

6. 植樹祭&収穫祭

平成13年度の第1回の植樹祭&収穫祭は麻生区市民健康の森を育てる会、多摩美みどりの会、たまみこども会の3団体の共催で開催された。平成14年度から平成23年度の10年間は、麻生多摩美の森の会と多摩美みどりの会の2団体の共催によって開催された。

1) 平成13年度

① イベントの目的

4月から積み重ねてきた一連の活動の締めくくりと、来年に引き継ぐ成果となる行事として企画した。ちょうど神奈川県からいただいた千年樹の苗木約40本が植樹時期であったこと、また、2ヶ所の開墾畑で栽培しているさつま芋・里芋の収穫が得られることから、植樹と焼き芋・豚汁をあわせた行事とした。地域の住民と子供たち、麻生区民、広く川崎市全域の森づくり・自然保護関係者の参加を呼びかけ、21世紀始まりの記念となる植樹と秋の味覚を楽しみながら交流して、「麻生区市民健康の森」を知ってもらい、会員や継続的活動参加者を広げて行くことが目的である。

② 植樹祭&収穫祭の概要

- ・12月8日、健康の森、多摩美児童公園にて8時から準備を始め、15時まで行った。参加者約230名。
- ・植樹は千年樹のほか、会員と黒川野外学習センター提供の苗などを加え、約70本を植樹。苗木には1本ごとに樹種別ナンバーを付けた。また、植樹後、参加者が木札に自分の名前を書いて植樹した根元に挿した。
- ・収穫祭の料理と購入・準備はたまみこども会の母親5人中心で行い、焼き芋は多摩美みどりの会中心で行った。さつま芋は収穫物だけでは不足のため買増し、里芋はかなり余るため、参加者の浄財、支援金のお礼にあてた。
- ・関係先などに招待・案内状を出し、新聞各紙、地元テレビ局へ報道依頼を行い、チラシ・ポスターを作成し広く参加を呼びかけた。懸案のトイレは、市役所健康の森担当の配慮で、今回だけ例外的に、仮設2基を借用設置した。報道はテレビ神奈川が当日の夕方と夜のニュースで放映し、「くらしの窓」は一面に取材記事を掲載した。



第1回植樹祭&収穫祭

2) 平成 14 年度

①今回の特徴

里イモ畑近くの竹やぶとなっている所などに植樹スペースを広げ、クヌギ、コナラなどの定番植樹に加えて、クリ、クルミ、ガマズミ、ヤマモモなどの実のなる木、キリ、ホオノキなどの花のきれいな木、ミツマタ、ハゼといった和紙・蠟の生産に使われた有用な木など、多様性に富んで楽しみの多い森づくりのための植樹構成にした。

②植樹祭&収穫祭の概要

- ・ 11 月 23 日、昨年より約 2 週間時期を早めて、市民健康の森と多摩美児童公園にて開催。朝、小雨が降り肌寒い 1 日となったため参加者は約 130 名と少なかった。
- ・ 植樹 40 本のほか、北澤清先生の樹木のスケッチを数ヶ所に展示し樹木ウォッチングを行い、会員にとっても非常に勉強になった。(第 6 章 多摩美の森の植物たちと樹木ウォッチング 105 頁参照。)
- ・ 収穫祭は昨年同様、焼き芋、茹で里芋、豚汁を楽しみながら交流した。

3) 平成 15 年度

11 月 16 日開催。暑いほどの好天で 210 名が参加。休憩所の藤棚用のノダフジ 2 本など 35 本を疎林地に植樹。植樹の後は、北澤先生より森にある木々について枝葉の実物を示しながらの講義を受けた。また、今年は新しい取組みとして、木の葉スタンプと麦茶づくり体験を行った。

一昨年、金程小学校 5 年生がドングリの種まきやカブトムシのお宿づくりなどの学習に来たが、その生徒が今は中学生となって 9 人も参加してくれた。



ノダフジの植樹

4) 平成 16 年度

3 年目を迎えたこの年は、森を育てるという目的に沿って「木と友だちになろう」というテーマで 11 月 21 日開催。当日は素晴らしい好天で 140 名の参加。特に新しい企画として多摩美の森に自生している主な樹木の調査を行い、高橋英さんの指導のもと 29 本の代表木を選び、その中の 23 本に名札を付けと木の葉の写真集を制作した(第 6 章 多摩美の森の植物たちと樹木ウォッチング 74 頁参照)。

植樹は 5 班に分かれ、広場の小道沿いに、あまり大きくならないツツジ類を中心に 20 本植えた。収穫祭は定番の焼き芋、豚汁。また初出品の畑でとれた小麦粉はあっという間に完売でした。

5) 平成 17 年度

この年は「木の成長を祝おう」というテーマで 11 月 20 日に開催。好天に恵まれ 150 名の参加。これまでの植樹祭で植えた木について、樹高、幹の太さ、樹冠の広さ、元気さを 5 グループで調査。手づくりした孟宗竹の物差しで樹高を測ると、4 年で 4 m を超えている木もあり、成長ぶりを確認しあった。

植樹はハギやミツマタ、チャなど修景用の低木を主に通路に沿って約 50 本植えた。

収穫祭は定番の焼き芋、豚汁を楽しみ、麦茶づくりの体験、木の葉スタンプで賑わった。

また今年も、新井会員夫妻のアルプホルンの演奏があり、子どもたちはアルプホルンの試し吹きに挑戦し大喜びした。なお、植樹祭にあわせて「麻生区市民健康の森 木の花 木の実 写真集第1集」を制作した。（第6章 多摩美の森の植物たちと樹木ウォッチング 80頁参照）



アルプホルンの演奏

6) 平成18年度

「森の恵みでアート」というテーマで11月19日に開催。朝から小雨がぱらつく天気です。130名の参加であった。植樹祭では、アケビ、グミ、クワ、カキなど小鳥が集まり、収穫も楽しめる実のなる木を10本程度植樹。次に「森の恵みでアート」の作品づくりに挑戦。①ホウノキの葉とススキの穂でお面づくり。②草の実探検とススキの穂のミミズクづくり。③ドングリこまや木の実のペンダントづくりを行った。最後にアート作品の発表会。



ホオの葉とススキの穂でお面づくり

収穫祭では恒例の焼き芋、豚汁を味わった。また、植樹祭にあわせて「多摩美の森周辺の四季の草花写真集」（第6章 多摩美の森の植物たちと樹木ウォッチング 85頁参照）を発行した。

7) 平成19年度

「里山の幸を楽しもう」というテーマで11月11日に開催。天候が次第に回復していく幸運に恵まれ230名の参加。植樹祭では多摩自然遊歩道から森の入口付近に、ヤマボウシ、エゴノキ、イロハモミジ、サザンカなどを植樹。

収穫祭では焼き芋、豚汁のほか、バームクーヘンづくりに初挑戦。子供たちはもちろん親からも喜ばれて大人気であった。また、昔懐かしい大麦粉（はったい粉）を使った「麦こがし」にもチャレンジした。最後に新井会員夫妻によるアルプホルンとクーグロックの演奏を楽しんだ。また、植樹祭にあわせて写真集 Vol. 4「多摩美の森 草木の実を楽しもう」（第6章 多摩美の森の植物たちと樹木ウォッチング 93頁参照）を発行した。

8) 平成20年度

「里山の秋を楽しもう」というテーマで11月6日開催したが、朝から雨のため、正式開催は中止となった。観察カード、食材などが全て準備されていたので会員のみで雨の中内輪で開催。その後、雨が小康状態になり、焚き火の煙や賑やかさで人が集まり140人の参加となった。



大人気 バームクーヘンづくり

9) 平成 21 年度

植樹も一段落したこの年は地域との交流・連携をめざして、この植樹&収穫祭が地域の皆さんが森の豊かさを知って我々の活動に理解いただく機会になるよう企画した。テーマは「歌でつなぐ 森の楽しみ」とし、11月15日開催。参加者約200名。



女性コーラスグループ「アンサンブル・アミーチ」の歌声が森を渡る

植樹祭は植樹のエリアが少なくなり、コブシ5本を植樹。続いて高橋英さんのガイドで樹木観察。広場で目につくオオモミジ、マユミ、エノキ、コナラ、ソメイヨシノ、オニグルミの6本をまわり、木の素顔、生きるための巧妙な営みなどを観察した。

最後に近隣町会在住の女性コーラスグループ「アンサンブル・アミーチ」による歌声が木々の間に流れ、また全員で唱歌を合唱し、大いに盛り上がった。

10) 平成 22 年度

第1回から植樹した木々も成長し、かつての里山らしい林相になり、一方小さな畑では年々芋、麦類の収穫があること、および、去年の女性コーラスグループのほか、近隣に在住の音楽家荒瀬順子先生にマリンバ演奏をしていただけることから、「森の恵みと歌で祝う」というテーマで11月7日開催した。

植樹祭は10周年記念植樹としてタブ2本、カツラ1本、ヤマボウシ1本、計4本を植樹。また、高橋英さんのガイドで、植えて10年たった樹木と10歳の女の子との比較、花かから2年かけてドングリが実るクヌギなどの観察を行った。収穫祭は焼き芋、豚汁、茹で芋（里芋）を楽しんだあと、宴も進み「アンサンブル・アミーチ」のコーラス、荒瀬さんのマリンバ演奏と続き、藤棚下のわかステージから素晴らしい音色が林間に響き渡った。

11) 平成 23 年度

植樹祭&収穫祭はここ数年、自然豊かな森を育てるとともに、「地域の皆さんとの交流・連携」を深めることをねらいとして開催してきた。そこで今回のテーマは「発見！里山の豊かさ、楽しみ」とし、11月20日に開催した。前日は雨、当日もほとんど雨との予報であったが朝から天気が回復し200名の参加であった。

最初に「暮らしに役立つ植物たち」（第6章 101頁）の観察。選んだ木はコナラ、エノキ、ハウノキ、ミツマタなどの8種類。日本の文化は里山植物で豊かに育ったことが分かり、参加者は大いに感心された。植樹は花と実と紅葉を3回楽しめるヤマボウシを3班に分けて3本植えた。

収穫祭は焼き芋、豚汁、茹で芋（里芋）のほか、子供たちは焚き火のおきでマシュマロを焼いて楽しんだ。森での音楽会は今年も荒瀬先生と弟子の村



暮らしに役立つ植物たちの観察

田恵さんのお2人によるマリンバ演奏。メイプルリーフ・ラグ、ハンガリー舞曲第5番などが演奏され、最後にもみじ、赤とんぼを皆なで合唱した。雨上がりのためか、マリンバの音色がほんとうに良く森に響き渡った。



荒瀬さん・村田さん師弟によるマリンバ演奏

7. 小学校の総合的学習への協力

1) 平成13年度

金程小学校5年生の担任、新田先生が市の広報で目にした「ふれあいの森で里山づくりを」という記事に触発され、生徒58人の活動がスタートした。以下の文章は新田先生が平成13年度活動報告書に投稿されたものである。

— バスで10分、徒歩で15分の森の中ということで、はじめは「遠いなあ」「森の中は暗くて気持ち悪い」と言っていた一部の子どもたちも、回を重ねるにつれ、自然に触れる楽しさを感じ始めてきました。4月には森を散策したり、タンポポを丈夫にするためにタンポポ畑を駆け回ったりして「森」は楽しいということ始めて知ったようです。6月にはカブトムシのお宿を作るため木を運んだり、わらを集めてベッド作りをしたりして、体を使って「森」のために働くことを経験しました。10月にはクヌギやコナラのどんぐり拾いをし、それを種まきしました。その時にカブトムシの宿にたくさんの幼虫が育っているのを見て驚き、喜びました。子どもたちに、自然を見る目が育っていることを実感した最近の出来事があります。地域にある「くじらの森」が開発予定になっていることを知った何人かの子どもたちが「くじらの森の開発をやめてもらって自然を残したい」ということや「グリーンマークを集めて緑を増やしたい」と言い出してきたのです。ふるさとの森を守りたいという意識の高まりも、この体験活動があったためだと感じています。—



金程小学校 どんぐりを播く苗床づくり



カブトムシのお宿づくり

2) 平成14年度

金程小学校5年担任の大治先生と6年担任の新田先生の平成14年度活動報告書への投稿文を以下に掲載。

— 金程の学区にも自然はたくさん残っていますが、この「ふれあいの森」の魅力はなんでしょう。それは自然の姿そのままではなく、人間の手が入り、自然を活かしていることでしょう。その魅力を子どもたちは、言われなくても体で感じとっています。子どもたちが心を解放し伸び伸び行動する様子や、今まで知らなかった興味・感心が広がっ

ていく様子がわかります。5年生は6月には小グループによる自然観察と麦のことを教わりました。9月には学校に来ていただいて麦茶作りをしました。10月には、ドングリを拾いそれを植えました。その後、虫の声を聴いたりして、秋を体いっぱい吸い込みました。このような充実した活動ができるのも森の方々のおかげです。私たちが行く前の下準備や、そして自然とふれあうための豊かな知識が子どもたちに自然の素晴らしさを気づかせてくださっているのではないのでしょうか。（5年担任 大治）—

— 2年間の「ふれあいの森」での活動や健康の森を育てる会の方々とのふれあいを通して、金程小6年生は何か大きなものを受け取ったような気がします。木や虫や鳥を見つめる優しい目、森の中での活動の楽しさ、自然を守る活動の地道さ、そういうものを感じる「心」を育てていただいたように思いました。（6年担任 新田）—

3) 平成 15 年度

この年度より金程小学校のほかに西生田小学校3年生、千代ヶ丘小学校5年生が加わった。

①金程小学校5年生

- ・6月23日、5年生63人が2班に分かれて学習。1班は麦の学習。大麦、小麦、ビール麦の違いと特徴、何に使われるか、生産量と消費量など麦の穂の実物を見ながら説明。2班はふれあいの森、多摩美の森、多摩美公園を見学し、いろいろな花や虫を見つけました。
- ・10月22日、多摩美の森での麦の栽培・収穫までの活動を紹介。次に6班に分かれて麦茶を作り、試飲。残った焦がした麦は石臼でひき「麦こがし(はったい粉)」を作り試食した。

②千代ヶ丘小学校5年生 100名の調査・研究と発表会

- ・9月、子供たちは4、5人ずつグループを作り、テーマを決めて身の回りの環境問題を調べる活動を始めた。そのため多摩美の森の会員にも以下の質問がきた。
 - どんな植物がありますか。 ○どんな動物がいますか。
 - 森の広さはどのくらいですか。 ○森の破壊はいつから始まりましたか。
- ・2月24日、子どもたちから招待状がきたので発表会を見学。体育館いっぱいに展示物が並び、子どもたちが寸劇や説明をして調べたことを発表した。

③西生田小学校3年生 42名

- ・10月15日、健康の森の畑で収穫した3種類の麦を前に名前当てクイズを行った。その後、大麦、小麦、ビール麦の特徴、何に使われるかを学習。またその麦を使ってストローも作った。次に4班に分かれ麦茶を作りストローを使って試飲。
- ・10月17日、森の隣のそば処「櫟(くぬぎ)」集合し、そばの花(赤、白)を見学したのち、そば屋のご主人のそば打ち実演ならびに説明を受けた。場所を健康の森に移し、鎌をもって実際にそばを刈り取り、そばの実を収穫。そばの実をすりこ木で摺りつ



西生田小3年生 麦の学習

ぶし、そば粉、胚芽に分けて学習。最後にそば茶とせんべいのおやつで野外学習が終了した。

4) 平成 16 年度

この年度より西生田小学校は3年生のほか5年生の総合的学習が加わった。

①金程小学校 5 年生 79 名

10月22日、麦の学習を行った。まず3種類の麦、大麦、小麦、ビール麦（二条大麦）など特徴や用途を学び、麦わらでストローを作った。次に我が国の食料の自給率がどれくらいなのか、グラフで説明し、中でも米を除いた麦などの穀物は数パーセントしかなく、ほとんど輸入品であることを学習。最後に麦茶、麦焦がしを作り試飲、試食を行った。

②西生田小学校 3 年生 19 名

11月5日、「そばの学習」を行った。

- プロのそば作りの学習：おそば屋さんでそばを食べることはあっても、粉からそば打ちまでの過程を見ることはないのではと、隣接しているそば処にてプロのそば打ちを見学。
- そばの収穫：3人1組みとなり、会員の指導で実際に鎌を使ってそばの刈り取りを行う。ほとんどの生徒はそばを見たこともなかったが、全員無事に刈り取ることができた。
- そばの実の収穫と観察：刈り取ったそばを脱穀し、そばの実を収穫。そばの実は黒くて三角、すりこ木で砕き、そば粉、胚芽、そば殻に分類され新たな発見となった。その後、11月19日、小学校において校内発表会が開催され、そばの発表グループは我々の意図している内容が織り込まれ、有意義な学習であったと確認した。



西生田小 3 年生 そばの実の学習

③西生田小学校 5 年生 150 名

12月13、14日の2日間、市民健康の森で野外学習を実施。

- 森の役割とボランティアの関わり：地球温暖化問題で森の大切さが見直されており、森は地域の小気象の改善、景観改善、コミュニティの場としてたくさんの恵みを生み出している。我々ボランティアはその循環に少しでも貢献し、また地域コミュニティを構築するべく活動していると説明。
- 森の観察：多摩美の森の植物たちや森の構成について説明。里山として保全・利用されてきたこと、そこに暮らしに役立つ植物がたくさんあること、従来より生育している樹木などの名前と樹形を観察した。
- カブトムシのお宿作り：あらかじめ孟宗竹で作った2基のお宿の囲いに落ち葉を集め、米ぬか、水などを加え寝床づくり。3年前に金程小学校5年生が作ったお宿から採取したカブトムシの幼虫を放虫した。

5) 平成 17 年度

この年度より金程小学校の総合的学習は、近くの「くじらの森」に場所を移した。以

降、当会は西生田小学校の3年生と5年生に対する協力体制となった。

①西生田小学校3年生 160名

11月7日、10日、11日の3日間、「森で学ぶ」というテーマで学を実施。生徒数が多いため、1日50名強を3班で3講座の学習で、指導員は会員を含め各日15名であった。

- プロのそば打ち見学とそばの学習：隣接しているそば屋さんで、そばの実の粉引き、水回し、練り、のばし、そば切りを見学。その後、ご主人からの説明があり、生徒からの質問を受けた。次にそば畑に移動し、そばの刈り取り、脱穀のあと、そばの実を砕き、そば粉、胚芽、そば殻を分別し学習した。
- 森の自然観察と木の葉（落ち葉）スタンプ作り：森を散策。木の特徴や名前を学習し、昨年5年生が作った「カブトムシのお宿」で幼虫を観察。木の葉を集め、葉に絵具をつけて、ハガキ大の用紙にプリントした。
- 麦の学習と麦茶作り：学校の調理室で大麦、小麦、ビール麦3種類の実物を前にして、種類あてゲームを行い、各種の麦の用途などを学習。最後にフライパンで麦茶作りをし、麦わらで作ったストローで試飲した。

②西生田小学校5年生 180名

12月5日、8日、9日の3日間、「森で学ぶ環境学習」を実施。指導員は会員を含め各日7～9名。

- 環境における緑の大切さと多摩美の森の保全活動について説明。
- 冬の森の写生を実施。
- 樹木の二酸化炭素の吸着量の測定：1班6人で各3本の樹木の幹周りを測定。試算式を使って樹木が吸着する二酸化炭素の量を算出した。6班で合計18本の樹木を測定し、年間75人分の二酸化炭素を吸着していることが判った。後日2月26日、「里山フォーラム in 麻生」が市民館で開催され、ここで5年生の環境学習について発表があった。阿部川崎市長より「大変立派な発表内容でたくさん教えてもらいました、また教えて下さい」とのコメントをいただいた。

7) 平成18年度

①西生田小学校3年生 160名

- 7月7日、森での自然観察会を実施。指導は会員を含め6名。
- 9月28日、29日、「麦の学習」「そばの学習」を実施。学習内容は前年度と同様。
- 11月29日、「秋の自然観察」を行った。指導は会員11名と高橋英さん。

初めての試みとして「種の旅立ち」というテーマで、植物たちがどういう工夫をして子孫を残しているかを実物を紹介して説明。動物によるもの、重力を利用するもの、風を利用するもの、水を利用するものなど自然の不思議さを学習した。また、「森のネイチャーゲーム」では、森にはいろいろな素顔、でき事がある、それらを16マスのビンゴゲーム用紙に埋めるため森中を探索した。

②西生田小学校5年生 170名

11月18日、19日の両日、「森での環境学習」を行った。

- 環境における緑の大切さと多摩美の森の保全活動について説明。

- ・冬の森の写生とカブトムシのお宿作り：落ち葉掻きを行い、あらかじめ作っておいた孟宗竹の囲いの中に落ち葉を入れ、米ぬかと水を加えお宿完成。用意した幼虫を観察し、放虫した。
- ・樹木の二酸化炭素の吸着量の測定。学習内容は前年度と同様。

8) 平成19年度

①西生田小学校3年生170名

- ・9月27日、28日、「麦の学習」「そばの学習」を行った。学習の内容は前年度と同様。
- ・11月27日、「冬の自然観察」を行った。内容は「種の旅立ち」、「冬の森の写生」「ネイチャーゲーム」の3講座で内容は前年度と同様。

②西生田小学校5年生170名

- ・12月18日、19日、「森で学ぶ環境学習」を実施。3講座で、緑の大切さと多摩美の森の保全活動、冬の森の写生と落ち葉で堆肥作り、樹木の二酸化炭素吸着量の測定。とくに落ち葉で堆肥作りは初めての試み。落ち葉掻きを行い、あらかじめ掘ってあった穴に落ち葉、米ぬか、土を入れて水をかけ、しっかり踏み固めて堆肥作りに挑戦した。この堆肥は2年後に畑で使用する予定である。そのほかの学習内容は前年度と同様。



西生田小5年生 落ち葉で堆肥づくり

9) 平成20年度

①西生田小学校3年生155名

- ・9月29日、10月3日、「麦の学習」「そばの学習」を行った。学習内容は前年度と同様。
- ・11月26日、「冬の自然観察」を実施。3講座で種の旅立ち、冬の森の写生、ネイチャーゲームを行った。学習内容は前年度と同様。

②西生田小学校5年生170名

- ・12月15日、16日、「森で学ぶ環境学習」を実施。3講座で学習内容は前年度と同様。

10) 平成21年度

①西生田小学校3年生144名

- ・10月1日、2日、「麦の学習」「そばの学習」を行った。学習内容は前年度と同様である。
- ・12月2日、「冬の自然観察」を実施。3講座で学習内容は前年度と同様。

②西生田小学校5年生178名

- ・12月14日、「森で学ぶ環境学習」を実施。3講座が始まる前に「光合成のしくみ」を図で詳



西生田小5年生 光合成のしくみを図解で説明

しく説明し、緑と水の大切さを学習。3講座の学習内容は前年度と同様。

11) 平成 22 年度

①西生田小学校 3 年生 160 名

- ・ 9 月 29 日、30 日、「麦の学習」「そばの学習」を行なった。学習内容は前年度と同様。
- ・ 11 月 30 日、「冬の自然観察会」を実施。3 講座で学習内容は前年度と同様。

②西生田小学校 5 年生 160 名

- ・ 12 月 20 日、21 日、「森で学ぶ環境学習」を実施。3 講座の学習内容は前年度と同様であったが、この年はとくに多摩美の雑木林に最も多いクヌギ、コナラをしっかりと学習した。

12) 平成 23 年度

①西生田小学校 5 年生 145 名

- ・ 10 月 4 日、6 日、「森で学ぶ環境学習」を実施。今年は 2 講座とし、新しい企画として「暮らしに役立つ植物たち」（第 6 章 101 頁参照）の講座を設けた。取り上げた植物はクヌギ、コナラ、エノキ、ホオノキ、マユミ、チャ、クロモジ、キリ、ミツマタ、ヤマグワ、ワラビの 11 種類。用途は衣・食・住に、生活用品に、エネルギー源にと多彩。とくにわらび餅と和菓子をいただく時の高級爪楊枝（クロモジ）、お札の原料となるミツマタ、昔、女の子が誕生したらお嫁に行く時の桐箆箆用に植えたキリなど、子供たちには初めての学習であった。樹木の二酸化炭素吸着量の測定は前年度と同様であった。
- ・ 後日 3 月 10 日、「2012 里山フォーラム in 麻生」が開催され、5 年生は「暮らしに役立つ植物たち」と「樹木の二酸化炭素の吸着量の測定」について、ほかに継続的に行った環境学習全体の中に位置づけて報告し、充実した環境教育につながっていることが伺えた。

②西生田小学校 3 年生 134 名

- ・ この年は多摩美の森の隣のそば屋さんが閉店したため、セットの講座としてきた「麦の学習」「そばの学習」はやむなく中止せざるをえなくなった。
- ・ 12 月 6 日、「冬の自然観察」を実施。3 講座の学習内容は前年度と同様であったが、児童たちが独自に観察するものを決めて、春、夏、秋と季節が変わるごとにどう変化してきたかを観察してきたので、その継続として行った。

8. 竹炭焼き

平成 12 年に作成した推進計画には炭焼き小屋を設置することになっていたが、費用が相当かかるため、平成 15 年 3 月からドラム缶を使用して竹炭焼きを開始した。竹材はこもれびの会より無償で提供いただき、伐採、枝打ち、運搬して炭焼き用に長さ、太さを切り揃え使用した。

1) 平成 14 年度

平成 15 年 3 月 1 日、2 日に実施。詳細な記録なし。

2) 平成 15 年度

平成16年3月6日、7日に実施。詳細な記録はないが、生焼けが多く失敗。

3) 平成16年度

平成17年3月5日、6日に実施。竹材の中に籾殻を詰めて焼いたが、2つのドラム缶とも全て生焼け状態で失敗。5日に雪が降り釜の温度も上がらなかったようだ。

4) 平成17年度

平成18年2月4日、5日に実施。昨年の失敗の原因を踏まえ、積雪時を避け実施を1ヶ月早くした。また、火が全体に回らず生焼けの原因になった籾殻は使用しない、焼く時間を十分にとることなど改善した。

結果は窯の下部に多少の生焼け部分があったが、まあまあの出来で収穫祭には出品可能であった。

5) 平成18年度

3月10日、11日に実施。この年の改善点は、煙突出口位置を一基は窯の下、もう一基は上とし、どちらが良いか比較する。竹炭琴に挑戦することになったので、竹炭琴が灰にならないように、釜の中心部に竹筒10本をセットした。11日の窯出しは雨で中止。14日に実施。

結果は、煙突出口が下部の窯は見事に全て灰になり、もう一基はまあまあの出来であった。原因は窯の焚き入れ口、窯本体の密封土盛り不足、とくに煙突部密封に不備があったと思われる。

6) 平成19年度

2月23日、24日に実施。今までの竹炭作りには完全な成功がなかったため、「竹炭の作り方」の本で勉強するとともに、温度計を使って窯の温度の推移を計測しデータをとり、窯の密封度を高めるため陶器用粘土を試用して開始した。とくに煙突出口の温度と窯自体の温度を測定した。

窯出しの結果は、全体には良い出来であったが、ロストル上の一部に生焼け部分か認められ、まだまだ完璧とは言えなかった。

7) 平成20年度

3月7日、8日に実施。前年度の温度測定データを十分に検討し、①煙突出口の温度を80℃で約5時間維持すること。②火力を上げるために団扇でなく扇風機で送風すること。③ロストル上に燃えやすい乾いた竹を置くことの3点に注意した。前日が雨であったため窯の設置、焚き口で燃やす材料の乾燥などで火入れは2時間遅れの12時になった。途中なかなか計画通りの温度に上がってこないため、燃やす材料を火力の強いものに変更して予定の温度を確保した。

翌日は期待を持って窯出しを行っが、ほぼ完全な状態の竹炭が得られた。また、窯の中央に置いた筒状の竹も完全な状態で取り出すことができた。



竹炭焼き

平成 21 年度以降は、孟宗竹の伐採からの諸準備に 2 ヶ月近くかかり、重労働でもあり、会員の高齢化も目立つこと、またこの間の枯れ木の伐採、間伐、枝打ちなどの森の管理がおろそかになるなどの理由で「竹炭焼き」は中止することとなった。

9. 星の観測会

多摩美の森での星の観測会は、平成 18 年 8 月 5 日、オーロラ天文台と渋谷星の会の主催で初めて開催された。オーロラ天文台の小川誠治さんは、多摩美 1 丁目に在住しているアマチュア天文家。JR 渋谷駅前にあった「五島プラネタリウム」で、この施設が平成 13 年に閉館するまでの 15 年間以上、仲間とともに天文ボランティアを行っていた。閉館後、この仲間と「渋谷星の会」という天文同好会を結成した。また、閉館の年の 9 月、自宅に 2 階建てのオーロラ天文台を建設し、重さ 500kg、長さ約 2m、口径 25cm の反射望遠鏡を設置した。天文台開設後は、自身で星空の観測を楽しむほか、地域の住民向けに観測会を開き、後進の育成にも力を入れてこられた。



オーロラ天文台の小川さん

多摩美の森は、青少年科学館による調査では、川崎市内では生田緑地、早野地区とともに、星のよく見えるベスト 3。多摩美周辺は都会には珍しく深い緑に覆われ、小高い山に囲まれ、余分な光が入り込まない地形となっていることが好条件の理由だと思われる。



夏の星空の観測

1) 平成 18 年度

8 月 5 日、第 1 回の星の観測会開催。約 90 名が参加。18mm 反射望遠鏡など 3 台の望遠鏡で、月の表面のクレーターや、西空に見える木星の表面の縞模様とその衛星、七夕の星であること座のベガなどを観測した。

2) 平成 19 年度

8 月 11 日、第 2 回星の観測会開催。参加者 40 名。木星、織姫星と彦星のほか、赤いさそり座のアンタレス、北斗七星の一つであるミザールなどを観測。

3) 平成 20 年度

- ① 8 月 9 日、第 3 回星の観測会開催。約 40 名の参加であったが、曇り空のため星は見え、望遠鏡の説明、この季節の星座の説明がなされた。
- ② 12 月 6 日、第 4 回星の観測会開催。初めての冬の星の観測で快晴に恵まれ、寒い中約 30 名の参加。金星、木星、上弦の月、アンドロメダ座の大星雲や北極星などを楽しんだ。この時期では、まだオリオン座などが東側の山に隠れて見えないため、オリオン座などの冬の星座が見られる 2 月開催がベストであることが分かった。

4) 平成 21 年度

8月8日、第5回星の観測会開催。雲が厚く観測は諦めかけていたが、参加者のお子さんから「星が見えてる」という指摘があり、この星が赤く光るさそり座のアンタレスであることが分かった。その後、観測不能のため、場所を多摩美の森管理棟に移し、7月22日に観測したばかりの皆既日食の写真やビデオを上映し、皆既日食のいろいろな説明があった。

5) 平成 22 年度

- ① 8月7日、第6回星の観測会実施。参加者 120 名。今回の目玉は金星と土星。金星の欠けている姿や、土星の環が観測できた。
- ② 2月5日、第7回星の観測会実施。参加者 25 名。当初は雲が多くて心配したが、18時半頃から雲が切れ、オリオン大星雲やすばる、M35 星団、シリウスなどを観測。とりわけ木星の縞模様がはっきり確認できた。東京から来た星のボランティアから「多摩美の空は噂通り暗く、また透明度も抜群で、星がよく見える。とくに真冬は最高だ」とのコメントがあった。

6) 平成 23 年度

- ① 8月6日、第8回星の観測会実施。参加者 30 名。曇天のため観測できず、「望遠鏡の解体ショー」を行い、望遠鏡の仕組みを説明し操作もしてもらった。この後、場所を管理棟に移し、小川さんがアラスカで撮影したオーロラの動画や写真を使ってオーロラの話をした。
- ② 12月3日、多摩美町会会館で「オーロラ天文台開設 10 周年を祝う会」が開催された。

10. プレーパークへの協力

「麻生プレーパークを創る会」は、市民自主企画事業として平成 18 年 11 月に発足した。この会は、麻生区の自然環境、人的資源を活かした独自のプレーパーク（冒険遊び場）を創り、子育てを支え合うコミュニティを創り、地域コミュニティの発展に貢献することを目標に設立された。

平成 18 年は 2ヶ所の見学会を行い、平成 19 年度より、麻生区内の公園数カ所で活動を始めた。多摩美の森でのプレーパーク開催は平成 20 年度からである。

【創る会からのメッセージ】

緑豊かな公園や緑地を使って開催しているプレーパークでは、木工作にはまる子、ブランコやハンモックで遊ぶ子、プレーリーダーと話し込む子。手も顔も服も泥まみれの子。多摩美の森では、焚き火を囲んでマシュマロを焼いたり、ラーメンを作ったり。学校や学年、性別に関係なく子供たちが思い思いに過ごす様子は、本当に自由で気ままで楽しそうです。けれども、子供たちの遊びは時として、にぎやかを乗り越えて騒々しくなったり、楽しさに夢中になり、危ないことに発展したりします。子どもたちの自由な遊びを「うちの子も、よその子も、ほめて叱って励まして」の心持ちで見守ってもらえたら、子どもたちが育つ場として、これ以上心強いことはありません。

地域の中であって、地域に育てられる遊び場を、麻生区に常設で作りたいと、これからも活動を続けていきます。

1) 平成 20 年度

1 月 24 日、麻生多摩美の森で始めてプレーパークが開催された。参加者 150 名。

2) 平成 21 年度

10 月 17 日、1 月 23 日、プレーパーク開催。参加者はそれぞれ 120 名、100 名。ダンボールや木の端材、工具などを用意し、子供たちに自由に遊ばせる。自分たちで工夫し、穴掘りに夢中になる子、ダンボールで基地を作る子など 10 時過ぎから 16 時まで、時間を忘れ遊んでいた。



落ち葉のプール

3) 平成 22 年度

5 回開催された。6 月 23 日、参加者 30 名。7 月 23 日、参加者 20 名。10 月 16 日、参加者 75 名。1 月 16 日、参加者 60 名。2 月 23 日、参加者 30 名。子供たちは自分でマッチで火をつけて、焚き火をおこし料理したり、落ち葉のプールで葉っぱをかけ合ったり、木にロープを吊り下げてブランコしたり、それぞれ思い思いに森を楽しんだ。



ハンモック遊び

4) 平成 23 年度

3 回開催。7 月 20 日、参加者 20 名。8 月 27 日、参加者 15 名。10 月 15 日、参加者 20 名。工夫していろいろな遊びが広がった。斜面の大きな木にロープを張ってターザンごっこ。地面に穴を掘りブルーシートを利用してプールを作り水遊び、2 本の木にハンモックを吊るしてハンモック遊びなど、午後 4 時の後片付けの時間になってもなかなか終われなかった。

1 1. 各フォーラムへの参加

川崎市市民健康の森フォーラムは、平成 13 年度より開催され、第 1 回は 7 区から選ばれたプロジェクトチーム主催で開催された、第 2 回より第 8 回までは 7 区の各区が担当となり開催。各区の担当が一回りした後、平成 21 年度からは、すでにスタートしていた（財）川崎市公園緑地協会主催の「花と緑の交流会」に 7 区すべての市民健康の森が合流し、現在に至っている。

「里山フォーラム in 麻生」は平成 12 年に第 1 回を開催したが、当会は平成 14 年度の第 3 回の「2003 里山フォーラム in 麻生」から参加し、現在に至っている。

市民自治創造・川崎フォーラムは、主催 川崎市総合企画局自治政策部で、開催は各区持ち回りで行われる。平成 14 年度から 7 区市民健康の森の一員として参加。

1) 平成 13 年度

9月2日、第1回川崎市市民健康の森フォーラムが開催された。各区の展示と説明、またパネルディスカッションが行われた。各区においては、これから推進計画を立てるところもあったが、それぞれのブースに展示された写真や模型などそれぞれに意気込みが感じられた。当会では、市民発表会の際に使用した写真や、ジオラマ模型と畑で生育している里芋を鉢植えにして出展。

2) 平成14年度

- ① 1月25日、市民自治創造・かわさきフォーラムに市民健康の森の一員として参加。詳細は記録なし。
- ② 2月9日、市民健康の森フォーラムが宮前区担当で開催された。他区とともに参加。写真パネル出展。詳細は記録なし。
- ③ 3月11日、「2003 里山フォーラム in 麻生」が開催され参加。写真パネル出展。

3) 平成15年度

- ① 2月7日、当会担当で市民健康の森フォーラムが、麻生市民館で開催された。
「雑木林と人とのかかわり」というテーマで、植物誌調査会運営委員の吉田多美枝氏の講演が行われた。各区とも写真パネルの展示と発表と、その後の懇親会で大盛況であった。
- ② 2月13日、14日、市民自治創造・かわさきフォーラムが高津市民間で開催された。写真パネル出展とトークに参加した。
- ③ 3月14日、「2004 里山フォーラム in 麻生」が開催。写真パネルの出展と発表。



市民健康の森フォーラム 麻生多摩
美の森の会の展示（麻生市民館）

4) 平成16年度

- ① 2月19日、幸区担当で市民健康の森フォーラムが日吉合同庁舎で開催され参加。今回は「地球温暖化防止をみんなで考えよう」というキャッチフレーズの下で、「森と生物の共生」をテーマに行われた。幸区市民健康の森の加瀬山は6.6haあり、そのうち動物公園は2.1haある。ここにある夢見ヶ崎動物公園の園長、安納氏による講演が行われた。また、各区の展示と発表が行われた。
- ② 3月12日、13日、市民自治創造・かわさきフォーラムが開催された。市民健康の森の一員として参加し、写真パネルを出展した。
- ③ 3月19日、「2005 里山フォーラム in 麻生」が開催された。写真パネルと畑で生育している麦の実物を出展した。

5) 平成17年度

- ① 2月18日、中原区担当で市民健康の森フォーラムが、中原区役所で開催された。初めに、川崎市立看護短期大学の小濱優子先生の「自然の恵みを生かした芳香療法（アロマセラピー）」の講演が行われ、その後、各区の活動報告がなされた。
- ② 2月26日、「2006 里山フォーラム in 麻生」が開催された。まず、東京農大の進士五十八教授の「緑と農の多摩ライフ」というテーマで、農作業に関わりを持つこと

の大切さの講演。数団体よりの活動発表があり、とくに西生田小学校5年生が、昨年多摩美の森で学習した樹木の名前や樹木の二酸化炭素の吸着量の測定など、緑の環境に対する大切さを発表した。最後に里山フォーラム代表の平林謙三氏（当会副会長、いずれも当時）ほか2名によるパネルディスカッションが行われた。当会は今回も写真パネルを展示した。

- ③ 3月11日、12日、市民自治創造・かわさきフォーラムが「未来を開く地域力」のテーマで、麻生市民館において開催された。初日は、牟田悌三さんの「大事なことは、ボランティアに教わった」の講演など。2日目は「麻生を知る」イクスカーションを行い、区内の2ヶ所を2時間かけて歩いた。当会は7区市民健康の森とともに、写真パネルを展示した。

6) 平成18年度

- ① 2月17日、多摩区担当で市民健康の森フォーラムが、多摩区役所で開催された。多摩区の小学生、中学生の発表があり、当会からは一会員が、会の現況、活動の発表を行った。
- ② 3月3日、市民自治創造・かわさきフォーラム「あなたが動く、地域が変わる」のテーマで開催された。最初に田尻住史さんの「市民活動が元気になる協働のあり方」の基調講演が行われ、続いて4つの分科会で市民活動のあり方について、さまざまな角度から討論が行われた。
- ③ 3月17日、「2007 里山フォーラム in 麻生」が開催された。和光大学の堂前教授の「自然と生活の両立に向けて」の講演があり、岡上地域における和光大学の取組みが紹介された。その後、数団体の活動発表、パネルディスカッションが行われた。

7) 平成19年度

- ① 2月14日、川崎区担当で市民健康の森フォーラムが、ラゾーナ川崎プラザで開催された。足利工業大学副学長の長牛山泉先生の「森と風とエネルギー」と題する基調講演の後、7区の活動報告が行われ、最後に懇親会で締めくくった。
- ② 3月1日、市民自治創造・かわさきフォーラムが開催された。今年は宮前区民フォーラムと共催で西城秀樹のトークショーほか、さまざまな行事が行われたが、当会は「みんなで考えよう：輝け生命！！みどりの回廊ネットワークづくり」の花と緑7区ポスターセッションに出展、説明を行った。
- ③ 3月15日、「2008 里山フォーラム in 麻生」が開催された。地元伝統芸能の白山神社お囃子に始まり、トトロの森ふるさと財団の岡本俊英氏の「次世代に引き継ぐ自然と文化～トトロの森から」の基調講演が行われた。また、「麻生にプレーパークをつくろう、多摩美の森の会と子ども達」の活動報告がなされ、最後にパネルセッション、写真展の表彰が行われた。

8) 平成20年度

- ① 2月14日、高津区担当で市民健康の森フォーラムが高津区役所で開催された。JICAのブラジル日系協会の鏑木功氏の「ブラジルと日本移民・日系人」と題する基調講演が行われた。当会は完成したばかりのジャケットを紹介し、パワーポイントを使って活動報告を行った。

- ② 2月22日、「2009 里山フォーラム in 麻生」が開催された。八王子長池公園の内野秀重氏の「里山の生き物と共生しよう」の基調講演が行われた。また、今年は始めて各団体が、展示物を前にリレートークを行った。

9) 平成 21 年度

- ① 12月5日、(財)川崎市公園緑地協会主催の「2009 花と緑の交流会」が、高津市民館で開催された。前年度で市民健康の森フォーラムが各区一回りしたため、今年度より7区の市民健康の森すべてが、この交流会に参加した。午前中はパネルを出展した団体のパネルセッションが行われ、それぞれ1分間のスピーチをした。午後からは川崎市環境局緑政部より「川崎市緑の基本計画」の説明があり、続いて「次世代につなぐ花と緑」をテーマに、6団体の活動報告がなされた。会場からは、会の概要説明と「子供たちとの交流」をイベントでの実践を通して発表した。最後にプロ・ナチュラリストの佐々木洋氏の基調講演が同じテーマで行われた。
- ② 3月13日、「2010 里山フォーラム in 麻生」が「集い語ろう！みどりと農の文化を活かすまち」をテーマに開催された。16団体が活動の展示と発表をした。基調講演は岩崎正弥愛知大学教授による「“場”の豊かさを求めて一地域のこれからへ」。地域づくりの根本は、暮らしの“場”を豊かにすることにあり、それは農（自然と人の交流）の思想に基づくということを提案された。また、5つの小学校からの発表があった。西生田小学校5年生は、多摩美の森での環境体験学習で学んだ樹木の役割を発表した。

10) 平成 22 年度

- ① 11月28日、「2010 花と緑の交流会」が高津市民館で開催された。例年と同様、各団体のパネルが展示された。まず、2つのミニサロン「都市における花卉生産と枝折物（しおりもの）ハナモモのお話」、「川崎市の公園緑地と愛護活動」が行われ、次に4団体による活動発表が行われた。最後に常田富士男さんの「花と緑が織りなすあったか話」の講演で終了した。
- ② 3月5日、「2011 里山フォーラム in 麻生」が、前年度と同じテーマで開催された。各団体が活動のパネルを展示し、午前中は、「夏菟太鼓」の演奏のあと、区内の5つの小学校が「私たちが“地域”から学んでいること」を発表。西生田小学校5年生は、多摩美の森での環境体験学習のほか、様々な学習を重ねて「環境について考えよう」を発表した。午後は、関根啓子一橋大学大学院教授の基調講演「地域の“場”がはぐくむこれからの社会」。活動団体代表によるパネルディカッション「多様な里地里山の関わりから語り合う」が行われた。

11) 平成 23 年度

- ① 11月5日、花と緑の交流会に先立ち、プレイベントとして「地域探検隊」が開催された。多摩区から麻生区にかけて10ヶ所の緑地や公園を歩き、最終地点は麻生区市民健康の森で、約30名の参加。



里山フォーラム in 麻生での
西生田小5年生の発表

11月20日、「2011 花と緑の交流会」が開催され、参加は59団体、パネル出店52団体、約750名が集い大盛況であった。今年は、7区の市民健康の森は特別企画として1室を借り切り、〔川崎市市民健康の森10年の歩み〕の特別展を行った。劇団飛行船のミニ劇場として「ロビンフッドの冒険」が午前、午後2回上演され、また、5人の講師を招き、ミニ講座も開催された。

②3月10日、「2012 里山フォーラム in 麻生」が開催され、里山ボランティアが集い、活動の展示、発表、交流が行われた。今年も3つの小学校5年生による里山体験、農業体験、環境学習についての報告があった。西生田小学校5年生は、多摩美の森で学んだ「暮らしに役立つ植物たち」「樹木の二酸化炭素の吸着量測定」をはじめ環境学習全体について発表を行った。

12. 総会

1) 平成13年度

4月19日、臨時総会開催。会則および次年度の体制を検討。

2) 平成14年度

4月21日、麻生区市民健康の森の設立総会を開催。前年度の事業報告、会計報告が承認され、この会の名称を「麻生多摩美の森の会」とすること、並びに「麻生多摩美の森の会会則」を決定した。また、新しく幹事を選出し、その中から会長、副会長を決定した。

3) 平成15年度

4月9日、第1回通常総会を開催。14年度活動報告、決算報告、監査報告は承認され、次に平成15年度の活動計画、予算案の審議がされた。

本年度計画には次の4つの特徴がある。①会員の発意で定例以外に自由な活動日を設ける。②作業時の安全規則を定めた。③会報「麻生多摩美の森だより」を年4回発行する。④予算に（財）都市緑化基金の助成金特別会計が加わった。



4) 平成16年度

4月18日、第2回通常総会開催。役員改選を含め、諸議案が審議、承認された。

5) 平成17年度

4月23日、第3回通常総会開催。活動報告、決算報告等の諸議案はすべて審議、承認された。

6) 平成18年度

4月22日、第4回通常総会開催。役員改正議案を含め諸議案はすべて審議、承認された。

7) 平成19年度

4月21日、第5回通常総会開催。諸議案は審議され、すべて承認された。今年度は管理棟（多摩美の森の家）とバイオトイレが完成したため、多摩美の森の家運営委員

会を新たに設置し、「多摩美の森の家利用規定」、「多摩美の森の家運用細則」を審議し承認された。これにより、4月21日付けで会則の改訂を行った。

8) 平成20年度

4月26日、第6回通常総会開催。役員改正議案を含め、諸議案は審議され、すべて承認された。

9) 平成21年度

4月25日、第7回通常総会開催。諸議案は審議され、すべて承認された。とくに、役員改正の時期ではなかったが、諸事情により会長、副会長が選出された。

10) 平成22年度

4月24日、第8回通常総会開催。役員改正議案を含め、諸議案は審議され、すべて承認された。

11) 平成23年度

4月23日、第9回通常総会開催。諸議案は審議され、すべて承認された。